

水稲カメムシ対策について

令和元年度産米では、カメムシ類による斑点米は等級格下げが多く見られました。カメムシの種類および防除対策について説明します。

1. 管内で問題となるカメムシについて

(1) クモヘリカメムシ

県内で、最も多いカメムシで体長は **16mm** の大型のカメムシです。飛来して水田に進入して産卵し、ふ化した幼虫も加害します。成虫・幼虫もともに籾を貫通して吸汁するため、生育後半に幼虫密度が高くなった場合、斑点米が多くなります。

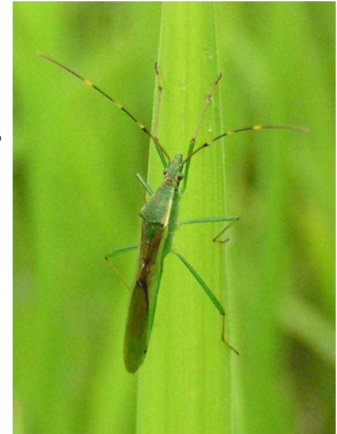


写真1 クモヘリカメムシ成虫
体長 16mm 前後



写真2 クモヘリカメムシ幼虫 (左) と被害粒 (右)

(2) カスミカメ類 (アカヒゲホソミドリカスミカメ, アカスジカスミカメ)

体長は **5mm** の小型のカメムシです。籾を貫通して吸汁することができないため吸汁する部位は頂部や割れ籾の側面を加害します。

アカスジカスミカメはイネ科雑草以外に、イヌホタルイ、シズイにも産卵します。



写真3 アカヒゲホソミドリカスミカメ (左), アカスジカスミカメ (右) 体長 5mm



写真4 カスミカメ類による斑点米 (左 籾の頂部, 右 ふ割れ部分の吸汁)

2. カメムシ対策について

(1) 耕種的防除

①本田防除

ノビエ等のイネ科雑草の穂はカメムシにとってエサであり繁殖場所です。さらにアカスジカスミカメはイネ科雑草のみならずイヌホタルイ等のカヤツリグサ科の穂も産卵場所とするため、水田内の除草管理を徹底して下さい。



写真6 ヒエの多発ほ場 (左), ヒエを吸汁するカメムシ (右)



写真5 ホタルイ

②畦畔除草

水田畦畔に残っているメヒシバ等のイネ科雑草の穂にもカメムシは飛来します。水田畦畔の除草を行い、カメムシをほ場周辺に近寄らせない事が出来ます。ただし、水稻の出穂前後の畦畔除草は、かえってカメムシを水田に追い込むことになるので、出穂 14 日前までに行って下さい。



写真7 イネ科雑草が繁茂した水田畦畔

(2) 化学的防除

農薬によるカメムシ防除を有効的にするためには適切な防除時期に農薬を散布することが重要となります。

1 回目の防除は「穂揃期」（全体の 80～90%が出穂）となります。カメムシの成虫が水田に侵入して産卵するのを防ぐ目的で行います。

1 回目の防除以降も、カメムシの発生が多く見られる場合は 2 回目の防除となります。散布時期は 1 日目の散布から 7～10 日後に 2 回目の散布を行います。なお、2 回目の散布を行う際は 1 回目の使用した農薬と RAC コードが異なるものを使用して下さい。



写真8 穂揃期の様子

*カメムシの発生程度に関する情報は「茨城県農業総合センター病害防除部」から発行している「病害虫発生予察情報」を参考にして下さい。